The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	スピーチスタイルアップシフトの会話分析を用いた研究 : 日本語の雑談における反応要求の技法
Author(s)	千々岩, 宏晃
Citation	日本語・日本文化研究. 2016, 26, p. 115-126
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/59674
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

スピーチスタイルアップシフトの会話分析を用いた研究
―日本語の雑談における反応要求の技法―

千々岩 宏晃

1. 問題意識

本研究は，日本語の二者間の雑談におけるスピーチスタイルシフトの，特に，「常体を使用している話者が敬体を一時的に使用する現象（以下，アップシフト[1]）」について，それが反応を「用心深く引き出す」技法であることを例証するものである．

稿者は，日本語学習者の友人から時折不満そうに「なぜタメゴ[2]で話さないの？」と問われることがある．彼らは（そしておそらく多くの日本語第一言語話者も），常体を「タメゴ」，敬体を「ケイゴ」と二元的に理解し，稿者が使用する敬体を「距離をとられている」「親しくない」と受け取るのだろう．だが，日本語の雑談を観察すると，それら印象に無関係の現象もある．

事実として，スタイルシフトに関する語用論・談話分析を用いた研究(三牧 1993，大津 2007，申 2007 など)は，親しさとの関わりで論じていない．また，西阪(2007)では，常体-敬体の使い分けが，相互行為的資源として，「横道にそれた話を本筋に戻す」というような会話の中の活動と密接に関わる形で用いられることもある[3]と述べられている．それゆえ，敬体の使い分けは，より詳細な記述を必要とする現象であると言えるだろう．

2. 先行研究と本研究の目的

本節ではアップシフトに関する研究を概観し，本研究の必要性を述べる．

アップシフトに関する研究は，その生起する条件を記述的に述べる研究(宇佐美 1995，石崎 2000)がほとんどであった．しかし，2000 年以降は「機能（アップシフトによって何が行われているのか）」の研究も行われている．

機能研究の先駆けである三牧(1993)は，スピーチレベルシフトを(I)心理的距離の調整，(II)談話標識の 2 つの機能に分けられるとしている．従来研究も，大きく分けてこの二つに分けられる．三牧は，敬体-常体の談話内での変化を待遇レベル・シフトと呼び，テレビのトーク番組における「常体から敬体」，「敬体から常体」双方のスタイルシフトの談話展開の機能を，3 つ設定している(表 1)．ゆえにこれは(II)談話標識に関する研究である．

それに対し， 日本語文法記述研究会(2009)では，単文での発話を中心に，それら機能を記述している．これは(I)心理的距離の調整に関する研究であると言えるだろう．また，劉(2013)のように，それらを折衷し，機能を網羅的に記述しようとしたものもある．

確かに，話題の開始，あるいは終了に配置されているアップシフトはデータから観察可能である．例えば，次の断片 1 および 2 を見てみよう．

表 1　アップシフトに関する先行研究

機能＼先行研究	三牧 (1993)	大津 (2007)	西阪 (2007)	日本語文法記述研究会 (2009)	劉 (2013)
新しい話題を導入する	○				○
話に注釈・補足等を挿入する	○				
終了の合図する					○
重要部分の明示・強調	○				
意見/立場の対立の提示/聞き手との心的距離を遠ざける				○	○
意識が相手に向かっていることを示す（依頼，勧誘，確認等）				○	
話し手の一時的な発話キャラクターを演出する		○		○	
ふざけ，遠慮，称賛，皮肉，冗談など，心の動きを表す		○		○	
話が本筋にあることを示す			○		

断片1．CallFriend japn1758 02m45s~

((FE と MY(マリ)が話している．FE の話す速度が英語と日本語で違うことが語られた後で，FE が日本語を話すときは丁寧に話したい，と述べた後．))

157 FE:[FPP]　　[t はぁ心のなかであってぇ,　　【情報提供】

158 MY:[SPP] うぅ::ん.　　【情報受理】

159　　(.)

→ 160 FE:[SCT] うぅ::ん=.h あぁ .hh [FPP]マリさん元気ですかぁ::?【反応】【情報要求】

161 FE:[FPP] [今何時なのぉ?>え今今まっ-<　　【情報要求】

断片2．CallFriend japn4164 11m05s~

((会社で人事異動が起こり，どこに誰が異動したかを話した後．))

617 W:[SCT] .hhh[う:んそのぐらいかなぁ.　　【反応】

618 Y:[FPP]　　[そうそう.　　【情報提供】

→ 619 Y:[FPP] あと同期の話とか?=　　【情報提供】

→ 620　[FPP]=あぁぁ゜uuui゜異動の話は:そんなとこ[です.　　【情報提供】

断片 1 では，160 行目で「マリさん元気ですかぁ::?」と，話題を FE 自身の話す速さの話題から，MY の近況へと話題を変え，それを限定するように，時差のある MY の時刻を訪ね

ている.

断片 2 では, 618 行目で Y が, 話すべき話題を思い出した際の「そうそう(≒そういえば)」で, 新しい話題を始めようとしているが, その前の話題 (「異動の話」) を終了させるために, アップシフトのある 620 行目を用いている.

ただし，Billig-Schegloff 論争[4](小宮 2011, Butterfield2015)にあるように，タイプ(I)，(II)の研究両方には研究手法上，指摘可能な点がある．例えば，大津(2007)は，スピーチスタイルのアップシフトが，別の人・別場面を想起させることによって，それが冗談に用いられ，かつそれが会話参与者の同調によって成り立っていることを明らかにしている．しかし，この研究では，ある発話が冗談であるとする認定が第三者の 2 名によって行われており，2 名が高い一致率(98%)ではあるものの，それが会話参与者の指向(orientation)を反映した分析であるかは疑問が残る．そもそも，参与者 A が冗談を冗談として発話したかどうかは，その後の反応可能な位置(slot)において参与者 B がいかにそれを受け取ったかを，いかに参与者 A に示したかによって，初めて観察可能になる．そのため，認定者二者よりはむしろ，会話参与者自身がその発話に対してどのような反応をどの連鎖(sequence)上の位置で返したのかを観察し，記述する必要があるといえるだろう[5]．先述の西阪(2007)の研究は，連鎖環境の分析によって，一時的な敬体の使用が「話を本筋に戻す」という記述を可能にしている研究である.

そのように見ると，例えば「発話キャラクターを演出している」「意識が向かっている」「心理的距離を遠ざける」という記述は，それが参与者によって指向されているかを例証するのが困難か，その手段が非常に限られる記述であると言える．むしろ「そのことがいかにして参与者に理解可能なのか」を分析・記述し，例証することが必要であると言える.

以上の指摘から，本研究は，以下の二点を目的とする.

1. アップシフトが用いられる技法(technique)を，異なるデータの，連鎖環境の共通性にもとづいて定式化すること(連鎖位置の記述)
2. そして，その技法が，実際に参与者の指向に基づいて成立している行為であることを例証すること(行為の記述)

3. データと分析方法

本節では，本研究で取り扱うデータと，具体的分析の手順について説明する.

本研究で検証したデータは，TalkBank(MacWhinney 2007)内 CallFriend で公開されている友人同士の電話会話を録音した音声データ(約 530 分)[6]，稿者が採集した男性 3 人が会話している動画(約 90 分)，ならびに女性 3 人が旅行の計画をしている動画(約 90 分)，およびそれぞれを記号(付記参照)により文字化したものである．本稿はその中でも，今後の議論でのデータの入手しやすさから，TalkBank のものを記述・分析した.

本研究では，会話分析の手法を用いる．会話分析の手法は，連鎖環境と，その行為，そこ

から社会的背景を記述するために，実際の会話データを用い，例証する研究手法である．記述では，まず，文字起こししたものから，ほとんどの場合常体が用いられている二者間における会話を選び，敬体へのシフト（「です」「ます」の使用）が起こっている発話の周辺を文脈上発話の意味が通じるように区切った．次に，会話に機能と連鎖のラベリングを施した．その後，前節の目的 1：連鎖位置の記述を達成するために，連鎖環境と機能が共通したものでコレクションを作成し，その後，目的 2：行為の記述のために，共通に指向されている要素を検討・記述した．ラベリングは Schegloff(2007)を参照した．

4. 分析

本節では，データを分析・記述する．まずは，【情報提供】-【情報受理】の隣接ペアのあとに，関連する【情報提供】を行うことで，反応を要求している断片 3 を見てみよう．

断片3.　CallFriend japn4725 21m14s~

（(R と L はアメリカに留学している男子留学生．R はサテライトディッシュ（衛星テレビ受信機）を月払いで買おうとしており，L に現状を報告している.)）

258	R:	FPP	[(　　)その:サテライトを売ってるとこに,電話してぇ,	【情報提供】
259	L:		おぉ:::ん.	【継続支持】
260	R:	FPP	でどんな状況ですかぁ::>みたいな感じでしたら,<	【情報提供】
261	L:		うんうんうんうん.	【継続支持】
262	R:	FPP	でそれでいいですよ:::っつたら[そうなるわけよ.	【情報提供】
263	L:	SPP	[あぁなるほどな.	【情報受理】
264	R:	SCT	お:::ん.	【連鎖終了の要求】
265	L:		.hhhh[おん.	【連鎖終了の受取】
→266	R:	FPP	[でもこれは正直いって親には内緒です.	【情報提供】
267	R:		.hhh	
268			(0.2)	
269	R:		[nhuhu! hu!	【反応】
270	L:	SPP	n[¥まぁ::まぁそうだろうな.¥	【情報受理】
271	R:	FPP	言えたもんじゃねぇや ahah.	【情報提供】

アップシフトは 266 行目である．258-260-262 行は，一つの【情報提供】が分割して発話されていることが，継続調の音調からわかる．実際に，L も 259，261 行目でそれを支持するような反応をしている．その後，264 行目で情報提供の一連の連鎖が終わるが，266 行目で別の情報提供が行われている．

258 行目までに，R は，サテライトディッシュの購入にあたって何度も熟考したことを述べている．そして，258 行目からは，その購入のプロセスを説明でき，かつそれを（自らが）「したら」，「いいですよっつったら」と，条件の形として発話し，自らが購入の間際であることも示している．そして，264-5 行目で，話題を閉じる事ができる位置が来る．

しかし，追加の情報提供である「(お金の出元である)親には内緒」にしていることは，R と L にとっては「¥まぁそうだろうな.¥(270 行目 L)」と笑いながらいえるように親不孝ながらも可笑しいことであり，「（親には）言えたもんじゃねえ」ことが笑いながら評価される．

特筆すべきは，269 行目の R の笑いのタイミングである．266 行目 R が冗談であるかどうかは，音調では分からない．発話の順番を追って解釈すれば，「でも」が用いられていることで，別の話題を開始した可能性もあるが，「これは」ということで，266 行目が前の話題とは連続性があることも示唆される．しかし，発話の後半部ではアップシフト（「内緒です」）が用いられ，別の話題を開始した可能性も捨てきれない，という曖昧な状態にある．しかし，直前の話題が親不孝な行動であることを加味し，発話全体を再解釈すれば，268 行目の短い沈黙の後，可笑しいこととして反応すること(270 行目 L)は妥当だろう．ただし，そこで R は 270 行目の L の発話の開始まで，自らの発話を遅らせているように聞こえる．それは，L がどのように反応するかを待っている，と記述できる．つまり，R は，L が 266 行目をどのように受け取り，反応するのか（またはしないのか）に確証が持てない状態にあるとも言える．つまり，アップシフトは，発生位置によって新しい話題を開始しているのか，あるいはそれが前の話題の続きとしてなされているのかの用法の 2 つが互いに競合し，参与者自身にとって曖昧である場合もあることがわかる．

断片 3 では，「話題の開始」，と，「関連する情報提供によって反応を得る」用法の 2 つが競合する場面を観察したが，次に，別の連鎖を構成する断片 4 を分析，記述する．この断片は【情報提供】を笑いの誘導（ Inviting laughter ）で行っている(373 行目)にもかかわらず，反応が弱いために，反応追求(Pursuing Response 374 行目, 377 行目)を行っている最後に，アップシフトが用いられているものである．これは，非最少の後方拡張(Non-minimal post-expansion: Schegloff 2007) ，特に，第一連鎖成分をやり直す後方拡張(First pair part re-working post expansion: Schegloff2007: Fpost)で，アップシフトが使われている例である．

アップシフトが行われているのは，377 行目である．「トムちゃん」は S のボーイフレンドで， R との面識はない．R は，「トムちゃん」がマサチューセッツでバケーションをしていたという情報提供(368-369 行目)に対し，370-372 行目で情報要求を行っている．それに対して，373 行目で S は「ウエストバージニア出身」であることを述べているが，「出身」が笑って発話されていることは，それが笑いを誘っていることを予期させる．それに付け加え，S が 374 行目で「地元民」という形で言い換えていることも，そのウエストバージニア出身

であることの面白みを，さらに具体的に伝えるための語彙の再選択をしていると言える．そこから，375 行目の R の反応が不十分であることが遡及的に観察・記述可能になる．
さらに，S は 377 行目で「地元民」を「田舎もん（田舎者）」として言い換えている．このことから，R の 375-376 行目以降の反応はまだ不十分であり，その不十分さに対し S 自身が対処していることがわかる．一連の語彙の再選択は，単に情報提供だけではなく，適切な（この場合では笑いの）反応を追求する行為であるとも言えるだろう(cf. Pomerantz 1984).

断片4.　CallFriend japn1722 22m35s~

((「トムちゃん」はＳのボーイフレンド．))

368 S:FPP トムちゃんその間にマサチューセッツに行ってバケー
369 S:FPP ションだった．hhh [huhuh　【情報提供】
370 R:FPP　[うぅう-マサチューセッツ- .hhh
371　(.)
372 R:FPP 出身?　【情報要求】
373 S:SPP うぅん.FPP トムちゃんはねぇ:,ウエストバージニア(h)出(h)身【情報提供】
374 S:FPP hu[huhu .hhhhh Fpost 実は¥地元[民 hu¥.　【情報提供】
375 R:Spost [hh hh .hhh　[haha .hhh　【情報受理】
376 R:Spost [[うあぁ::.　【情報受理】
→ 377 S:Fpost [[¥田舎もんなんです¥[hehehaha hh .hh .hh　【情報提供】
378R:Spost　[uhuhuhenan hhh .hhh　【情報受理】
379　うわぁ ha:::hhhhhhh hhhh[h.
380 S:FPP　[そんなんこと言ったってボクだ
381　って¥日本で山梨生まれ[だからさぁ,田舎も[のなんだけどぉ.¥=

その中での 377 行目のアップシフトは，言い換えの 2 度めにあたり，ウエストバージニア出身→地元民→田舎もん，と，ウエストバージニア出身であるということがどのような「可笑しみ」を持っているのかをより直接的に表現した語彙の再選択，再々選択の後に起こっている．このことは，R に強い反応を要求することを示すことに貢献している．というのも，実際に R は 375-376 行目に比較して大きく長く反応しているからだ．これは，S の発話が，R によってより強い(この場合では笑いの)反応を要求するものに聞かれたからにほかならない．

次の断片 5,6 は，一見すると，アップシフトによって反応が求められていないよう見える．しかし，実は断片 4 と共通の性質を持っているものである．

アップシフトは 865 行目である．849 行目は，情報提供の形であるが，同時に，笑いを含んだ音調で話されていることから，それが面白いものであり，単に【情報受理】（例えば，

「へー」のような）以上の反応を返さなければならないことがわかるだろう．また，849 行目は，858 行目の下降調の音調までで，一つの行為（【情報提供】）を構成している．ゆえに，859 行目は第二成分を要求される位置であるが，反応はない．そこで，情報を追加する連鎖が 860 行目で開始される．それに対する反応である 861 行目は弱い笑いの音調だ．その後の 862 行目は，作り笑いであることが明らかな音調で発話されている．ここまでで，R と L の，情報に対する関心度の違いが，反応とその不在を通して明らかになっている．

断片5.　CallFriend japn 4044 25m

((高級ホテル(ウォールドーフ･アストリア)に泊まろうという話が前に行われている.R は，本（ロードトリップガイド）を見ながら話している))

	849 R:	FPP	tehaha! .hhh ちょ(h)っと¥まって,¥ウオルドーフのぉ,	【情報提供】
	850		(0.7)	
	851 R:	FPP	アストリアの?	【情報提供】
	852		(0.6)	
	853 R:	FPP	あれぇ,	【情報提供】
	854 L:	Fins	ん?	【修復開始】
	855		(1.2)	
	856 R:	FPP	¥シングル¥,	【情報提供】
	857		(0.5)	
	858 R:	FPP	¥二百三十五ドル¥.	【情報提供】
	859		(0.7)	
	860 R:	FPP	¥「実際にはこれより 40%ほど高め」¥. .hhhhh	【情報提供】
	861 L:	SPP	hehe	【情報受理】
	862 R:	SCT	haha! .h hah! [.h hah! .h haha!	【意見提示】
	863 L:		[hh	
	864 L:	FPP	.hhh [どう°やって-°	【情報要求?】
→	865 R:	Fpost	[すっ↑ごいですね.	【意見提示】

その中での 865 行目は，これまでの断片とは異なり，連鎖を閉じる第三成分に聞かれうる．そのため，それは反応を要求しないようである．また，この発話が，関心度の違いが明らかになった後に発話され，相手の反応を半ば「諦めている」ように聞かれることは，それが断片 3，4 とは別の行為であることを示唆する．関心事に関する感想を述べることで，「すでにもう語ることがない」ことを(一旦は)指向しているとも言えるだろう．

しかし，断片 5 の続きである断片 6 で，R は沈黙の後，別の引用を始める．そして，それを笑いを含んだ音調で述べることで，それが反応する必要があるものであることを示す

(869-870 行目). それに対し，L は(R の笑いに対しての)同じ意見を持っていることを強い調子で示す.

これは，「すっごいですね」でまとめられた，高級ホテルに対する「呆れ」の評価を，後に別の引用を用いてやり直している，といえるだろう．つまり，「すっごい」と呼べる評価の基準を，断片 3 のように宿泊の値段ではなく，それに代替する行為（別のホテルの少し良い部屋に泊まる）ことで言い直しているのである.

断片6.　断片 5 の続き

→ 865 R: Fpost　[すっ↑ごいですね.　【意見提示】
866　(0.7)
867 R: Fpost「こういうホテルでやすい部屋を無理して探すぐらいなら,【情報提供】
868 L:　[うん.
869 R: Fpost [.hh 普通のホテルで少し良い部屋に泊ま(h)った(h)ほうが
870　Fpost ¥ある意味[でくつろげる.」¥
871 L:　Spost [ああ!うん.<それいえるそれいえる.>　【同意見提示】

確かに，この「すっごいですね」という言い方は，断片 2 で確認した話題を終了させる用法（終了の合図:劉 2013）と類似している．一方，断片 5,6 での 865 行目は，反応を要求する行為とも，話題が閉じられうる位置であるとも言えるため，次の反応可能となる位置で，実際に反応が必要かわからない曖昧性(ambiguity)を発生させる．その意味で，867 行目で同様の行為を継続していることは，865 行目 R が本来は反応を要求する活動であったと遡及的に確認できる．しかし，その位置と用法の競合における曖昧性によって，反応が来なかった断片であることが例証できる.

断片 1 から 6 を総合すると，アップシフトが構成する行為とその連鎖タイプには,話題の開始・終了と対応する形で 2 種類あることがわかる.

まず，連鎖タイプ 1 は，01 からの連鎖が，連鎖を閉じる第三成分(Sequence Closing Third)によって閉じられた後，それに付け加える形で新情報を提供し，強い反応（笑いなど）を要求する際に用いられる（累加用法）．ただし，話題の開始の用法(断片 1)と対応し，競合しうる(表 2).

次に，連鎖タイプ 2 は，01 行目が情報提供，およびそれが可笑しいものである意見提示の形で始まる第一成分であることは共通しているが、それが弱い, 不充分な第二成分(Second Pair Part: SPP)であったときの対処法として用いられ，そのやり直し(re-doing)になっている(追求用法)．ただし，話題の終了の用法と対応し，競合しうる(表 3).

表 2 連鎖タイプ 1 の発話連鎖と，【話題の開始】の用法との対応・競合

連鎖タイプ 1 :累加用法(断片 4)	【話題の開始】の用法と対応・競合
01A:【情報提供 】[FPP] 02B:【情報受理】 [SPP] 03A: 【反応 】[SCT] →04A:【新情報提供】 [FPP] [累加用法]	01A：【情報提供】[FPP] 02B：【情報受理】[SPP] 03A：【反応】[SCT] 04A/B：【情報提供 etc.】 [新話題の開始][FPP]

表 3 連鎖タイプ 2 の発話連鎖と，【話題の終了】の用法との対応・競合

連鎖タイプ 2:追求用法(断片 5-6)	【話題の終了】の用法と対応・競合
01A:【情報提供・意見提示】[FPP] 02B:【弱い反応】[SPP] 03A:【情報提供・意見提示】[Fpost] (01 のやり直し) 04B:【弱い反応】[Spost] →05A:【情報提供・意見提示】[Fpost] (01,03 のやりなおし) [追求用法]	01A：【情報提供/意見提示】[FPP] 02B：【情報受理/同意見提示(通常の反応)】 [SPP] 03A：【情報提供/意見提示】[FPP] (01 のまとめ) [話題の明示的終了]

5. 考察

アップシフトは，話題の開始・終了に加え，直前が適切な反応ではなかったという，直前の反応に対する反応が不適切であるという「指摘」に用いられうる．そのような意味で，連鎖タイプ 1 も 2 も，相手に適切な要求をしていることを示しており，それが時にふざけや冗談を誘っているように聞かれうる．時として，「意識の向かい」や「心的距離」(日本語記述文法研究会 2009)であると感じられることもあるが，それは相手から適切な反応を得たい，またはそれが得られなかった時に用いる，反応の技法による表現効果である．

その技法の性質から，アップシフトは「丁寧」である必要がある．というのも，アップシフトは，社会的文脈で規範的に使用される義務的丁寧さの「ケイゴ」とは別に，相手から特別な反応（例えば笑い）を引き出すという，相手に行為を要求する行為とともに用いられるからだ．そしてそれは，常に相手からの反応が保証されているわけではないために，相手の反応を伺い，時には指摘することを必要とする．反応を伺うことは，「相手に（したくないかもしれない）行為を要求する」ことであるし，また指摘することは「その反応は違う」という一種の拒絶にもなりうる．その意味で，アップシフトは対人調整の観点から「丁寧」である必要がある．そして，それは，相互行為の資源として用いられているために，会話参与者の社会地位的関係性によって用いられる明確な規範としての「ケイゴ」とは別に必要な要素である．それゆえ二者間の関係が発展し，敬体が用いられなくなっても用いられる必要があ

る．

また，アップシフトは行為を構成する上で，微妙なバランスの上に成り立っているとも言える．なぜなら，アップシフトが用いられる発話は，「話題の開始」と「累加」，「話題の終了」と「追求」の用法の双方が，連鎖環境上類似していることから，「会話中どちらの用法もありうる」という可能性を含んだ曖昧なものであるからだ．

この「相手から適切な反応を丁寧に引き出す」という行為記述は，先行研究が示したものより，素朴かつ本質的な記述であるといえるだろう．そして，何よりも，それが参与者内で指向され，かつ例証可能である点，また，従来言われてきていた（また母語話者の直感にも合う）「敬体の丁寧さ」と連続性を持っている点も観察可能である．

6. 結論と課題

本稿では，日本語の談話において，通常，普通体で話している人々が，一時的に敬体を使う現象（アップシフト）が，相手に「笑い」などの特別な反応を要求していること，そしてそれが相手に行為を要求したり，相手の直前の行為を指摘したりするがゆえに，反応を「用心深く引き出す」技法を構成していることを例証した．そしてそれが，いわゆる「ケイゴの丁寧さ」と連続しながらも，しかし異なる資源として必要とされているため，通常普通体で会話していても時折必要になることを考察した．また，先行研究で示されてきた談話標識の用法と対応し，かつ競合していることも示すことが出来た．

残された課題も多い． 第一に，先行研究で示されたもののうち，それが社会的規範として用いられているのか，そしてどれが相互行為の資源として用いられているのかは，今後記述する必要があるだろう．第二に，それぞれの用法の連鎖環境を，データを増やして分析することで，先行研究で言われた表現効果のさらなる記述も可能になるように思われる．

参考文献

<和文>

石崎晶子(2000)「電話連絡の会話におけるスピーチレベルシフト」,『言語文化と日本語教育』，お茶の水女子大学, pp.62-74

大津友美(2007)「会話における冗談のコミュニケーション特徴 ―スタイルシフトによる冗談の場合―」，『社会言語科学』，第 10 巻第 1 号，社会言語科学会 pp.45-55

小宮友根(2011)『実践の中のジェンダー ―法システムの社会学的記述』，新曜社

申媛善(2007)「相互行為から見たスピーチスタイルシフト ―聞き手による「同調」に着目して―」,『筑波応用言語学研究』, 14, pp.59-72

杉山ますよ(2000)「学生の討論におけるスピーチレベルシフト ―丁寧体と普通体の現れ方―」，『別科論集』Vol.2,大東文化大学, pp.81-102

福島恵美子(2007)「デスマス形と非デスマス形との「混合体」に関する考察 ―日本人ビジネス関係者の待遇コミュニケーションから―」,『早稲田大学日本語教育学　第 1 号』, 早稲田大学大学院日本語教育研究科, pp.39-51

三牧陽子(1993)「談話の展開標識としての待遇レベル・シフト」『大阪教育大学紀要　第 I 部門』,　第 42 巻,　第 1 号, pp.39-51

西阪仰(2007)「行為連鎖のなかの敬体と常体」『明治学院大学大学院 社会学専攻紀要』31 巻, pp.55-78.

日本語文法記述研究会（2009）「第 13 部　待遇表現 –第三章　丁寧体と普通体」, 『現代日本語文法 7』, くろしお出版, pp.269-279

野田尚史(1998)「「ていねいさ」からみた文章・談話の構造」,『国語学』, 194 巻, pp.89-102

メイナード,　泉子, K.(1991)「文体の意味 ―ダ体とデスマス体の混用について―」, 『言語』,20-2, 大修館書店, pp.75-80

メイナード,　泉子, K.(2004)「6.2 ダ体とデスマス体：スタイルシフトの表現性」, 『談話言語学』,くろしお出版, pp.99-109

山本真理(2016) 「相互行為における聞き手反応としての「うん/はい」の使い分け：「丁寧さ」とは異なる観点から」『国立国語研究所論集』10 巻, pp.297-313

劉雅静(2013)「友人同士 3 者間会話におけるスピーチレベルシフトについて ―上下関係のある親しい友人の会話データをもとに―」,『言語学論叢』,　オンライン版第 6 号(通巻 32 号)

<英文>

Butterfield, Jeffrie (2015) “Conversation Analysis and the Debate on Social and Sequential Context”, 人文研究 (186), pp.97,99-109, 神奈川大学人文学会

Jefferson, Gail (1979) “A technique for inviting laughter and its subsequent acceptance / declination.” In G. Psathas (Ed.) *Everyday language: Studies in ethnomethodology*, pp.79-96, New York, NY: Irvington Publishers.

MacWhinney, B. (2007). The TalkBank Project. In J. C. Beal, K. P. Corrigan & H. L. Moisl (eds.), *Creating and Digitizing Language Corpora: Synchronic Databases*, Vol.1. Houndmills: Palgrave-Macmillan.

Pomerantz, Anita (1984) “7. Pursuing a response”, In Atkinson, J.M. and Heritage J (eds.) *Structure of Social Action, Studies in Conversation Analysis,* pp.152-163, Cambridge: Cambridge University Press.

Schegloff, Emanuel A. (2007) “7. Post Expansion”, *Sequence Organization in Interaction*, pp.115-168, Cambridge: Cambridge University Press.

付記　文字化記号一覧

.	下降調であること	.hhh	吸気	¥文字¥	笑いを含んだ音調
,	継続調であること	hhh	呼気	文(h)字	笑いながらの発話
↑文字	音調の急激な上昇	文字?	発話末の音調の上昇	>文字<	話速が早いこと
↓文字	音調の急激な下降	文字¿	発話末の音調の上下動	<文字>	話速が遅いこと
文字:	音の引き伸し	文字!	勢いのよい発話	文-	途中での音の途切れ
*文字	日本の文字体系では表記できない音	º 文字 º	話声が小さいこと	文字= =文字	前後の発話の音の連続
[文字	2 行で用いられ，発話が重複していること	文字	話声が大きいこと	【文字】	行為記述
FPP	第一連鎖成分	SPP	第二連鎖成分	SCT	連鎖を閉じる第三連鎖
Fpost	後方拡張の第一連鎖成分		Spost	後方拡張の第二連鎖成分	

注釈

[1] 敬体から常体，または常体から敬体へのスタイルシフトは，一つ研究で同等に扱っているものが多い．しかし，本研究では，常体から敬体への一時的なシフトのみで，かつ頻繁に言及するため，このように仮称している．

[2] ここでの「タメゴ（タメぐち)」は，いわゆる常体のこと．逆に，「ケイゴ」は，丁寧体，尊敬語，謙譲語，美化語等を含んだ「丁寧な/堅苦しい言葉」ほどの意味．

[3] しかし，西阪(2007)も述べるように，この結論は，敬体の使用が「親しさ」と全くかかわらないことを積極的に意味しない．

[4] 批判的談話分析と，会話分析との理論的背景をめぐる論争．Schegloff は，研究者ではなく，会話参与者が用いていると例証できるリソースを用いて記述する(=参与者指向の基づく記述)ことが，記述の正確性を保証するとした．詳細は小宮(2011; pp.100-112)を参照．

[5] ただし，大津(2007)には認定者がどのように冗談を認定したのか，その手順は書かれているわけではないため，認定者が後の行為を詳細に観察・分析して認定した可能性もある．

[6] 男女・年齢の異なる 18 種類のデータを観察したが，アップシフトがあったのは japn1722, 1758, 4044, 4164, 4725, 6688, 6717 である．アップシフトは計 36 件観察された．